

平成29年度第1回愛媛県今治構想区域地域医療構想調整会議 議事概要

- 1 日時 平成29年8月31日(木) 15:00~16:15
- 2 場所 愛媛県今治支局 4階大会議室
- 3 出席者 委員16名(うち代理1名)、委員随行者11名、事務局10名
- 4 傍聴者 2名
議題(1)及び(2)を公開し、議題(3)及び(4)を非公開にて開催
- 5 議長選出・副議長指名
委員の任期が平成29年5月31日をもって満了となり、委嘱替えを行ったことに伴い、議長を選出した。
議長には診療に関する学識経験者の代表者である医師会長が適任との提案があり、委員に諮ったところ、満場一致で今治市医師会長 木本眞委員が再任された。
また、設置要領に則り議長が今治市医師会副会長 菅拓也委員を副議長に指名した。
- 6 議題
 - (1) 平成28年度病床機能報告制度の結果について《公開にて開催》
事務局から、各医療機関が報告した平成28年7月1日現在の標記報告について、前年度報告との比較及び2025年の必要病床数との比較等を資料1により報告し、報告の精度が向上しているが病床の転換等は今後も推移をみていく旨を説明した。
特に質問、意見はなかった。
 - (2) 「今治圏域退院支援ルール」の運用について《公開にて開催》
「今治圏域退院支援ルール」は、圏域として取り組むものとしては県下第1号で、昨年11月に試行し、今年度から運用を開始した。
今年度は、このルールの定着を図るため、在宅医療介護等を支援する関係団体に在宅支援の実態調査を現在実施し、結果は、連携窓口担当者会議で報告するとともに、Q&Aとして「退院支援ルール」にも掲載する。
また、多職種連携研修会(講演会・パネルディスカッション)を11月に開催し、在宅医療看護の知識の向上と認識の共有化を図り、在宅関係者の顔がわかる関係づくりを目指している。
以上、資料2により報告し特に質問、意見はなかった。
 - (3) 平成30年度地域医療介護総合確保基金事業の要望について《非公開にて開催》

(4) 今治圏域の救急医療について《非公開にて開催》

【議長】 今治では、何とか策を講じて二次救急輪番を回しているが、救急はひっ迫している。

現在、県立新居浜病院が建替えに向けて動いており、次に、県立今治病院を建替えるのであれば、救命救急センターの完備した病院になるよう市全体で県にアピールしていきたい。

今、救急は土俵際に立たされているので新生の県病院ができるまでの間は、何とか救急を回し、みんなでこの町の救急を守っていききたい。

【委員】 救急が非常に困っているのは事実であり、それを踏まえて地域医療の中で県病院に求められる役割を果たすことが必要だと思う。

議長の話の中にあつた、救命救急センターは、三次救急のことで、一次救急、二次救急、三次救急をどのように配置して上手く回すかということが問題である。一次救急・二次救急をどのように住み分けて効率的にオール今治で救急を守っていくか、ということを考えなければならない。県の姿勢としては、三次救急は県の仕事で、一次・二次は市町の仕事というスタンスがあるので、一次・二次・三次の違いを認識した上でこれからの救急を守っていくことを考えないといけないと思う。

【議長】 救急全部が県病院に行くということではなく、今の輪番は当番の病院が全部診ているが、新しい県病院を建直すまでに新しい方法を、たとえば、ウォークインと救急車を分けるとか、一次・二次は医師会が診て三次は県病院と済生会病院が診るというふうなことを含めて決めなければいけない。

また、救急当番の病院は、スタッフにも待機してもらっており、赤字が出れば当番を継続できないので、難しいところがある。

【委員】 今治の地域医療では救急に関することが一番重要であり、市民からは、急に病気になった時の医療体制を求められているので、いろいろ医療資源を踏まえ、地域にとって適切な組み合わせを作るのがこの地域医療構想調整会議であると思うので引き続き進めていただきたい。

【委員】 医療資源を考えたら、脳卒中は3か所の医療機関でt-PAホットラインで対応し、ACS(急性冠症候群)も3か所の医療機関での対応を準備しており、一般外科も県病院と済生会病院に外科の手術ができる病院1か所を加え外科のホットラインを作ると3分の1の対応で済む。

医師会でt-PAとACSと外科ホットラインをうまく組み合わせて回すようなシステムを運用すると勤務医は楽になる。

【委員】 外科ホットラインも考えたいと提案している医師が、t-PA・ACS・外科ホットラインの3つをうまくからめるようなシステムも考えてくれており、これを回したらそれぞれの急性期がかなり助かると思う。

【委員】 救急医療が崩壊することにならないよう、継続可能な医療体制を今治で作っていかねばいけないので、医師会を中心にやっていけたら非常に助かる。

【議長】 医師会では、愛媛大学から新しい医師を県病院と済生会病院に派遣してもらったら救急が回るということを大学に説明し、医師の派遣をお願いしている。

【副議長】 本日の討論の結果を、この地域の医療はどうあるべきかを議論していることを各方面にしっかり伝え、さらに、県や市の行政も、きっちり後押しをして今治市民のために援助してほしい。

【委員】 県内の別の圏域の例では、病院の中に軽傷だけを診るブースを設け、開業医が入って一次救急の受入れを行っているので、今治もこのような体制を考えてはどうか。市町や保健所は救急の適正受診の啓発等により支援する。

【議長】 以前、輪番の救急病院とは別に、医師会市民病院で午後 11 時頃まで医師会員が当番で一次のウォークインを診ていたが、一次（医師会市民病院）と輪番の二次救急病院が開いていると、みんな輪番の救急病院に行き、一次の患者数が少なくなったので輪番の救急病院に一本化した。しかし、医師会市民病院を上手に使って一次だけなら前と同じように診ることはできる。

これからも建設的な意見をたくさん出していただきたい。市や県にも協力をお願いしたい。

※「今治圏域の救急医療について」は非公開で協議したが、委員の意見により協議概要をホームページに掲載し情報発信する。

〔事務局〕 今治保健所 企画課

電話 0898-23-2500

真鍋(内線 254) 高津(内線 315)